自ら学びに向かい、課題を解決することができる児童の育成
―自己決定の場面を取り入れた学びアップカードの活用を通して―

児童の実態
○与えられた課題は行おうとするが、受け身な姿勢の児童がいる。
○登場人物の心情の読み取りが表面的なものになる。

教師の願い
○学びのつながりを意識し、自ら進んで課題を解決できるようになってほしい。
○個人での追究や交流を通して、根拠をもちながら自分の考えを深められるようになってほしい。

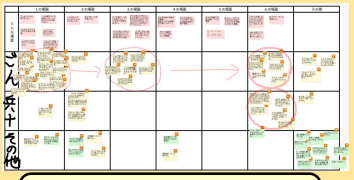
特別研修員　国語　山内　隼（小学校教諭）

実践事例
単元名：気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう
教材名：「ごんぎつね」（光村図書4年）

つかむ

手立て①：児童の問いを基にした個別の学習計画を作る活動の設定

初発の感想の問いを全体で共有する。 → グループでおすすめの問いを話し合う。 → 学習計画を自己決定し、学びアップカードに記入する。



共有した問いを場面や観点ごとに整理した表

「ごんがどうしていたずらをするのか」はどうかな。

ごんはひとりぼっちでさびしいから、いたずらをしたのかな。

ごんはただいじわるがしたかっただけではないかもね。

栗やまつたけを届けた場面の気持ちと比べると変化も考えられそう。

ごんの気持ちの変化を中心に考えていこう。みんなのおすすめの問いから学習計画が作れたぞ。

追究する

学びアップカード

学習計画⑤（自分で計画）	学習計画⑥（自分で計画）	学習計画⑦（自分で計画）
なったのかについて考えよう。	ごんは兵十にきづいてもらったときはどんな気持ちだったのかな。	ごんは、うたれたときはどのような気持ちでうなづいたのか。
ごんは一人ぼっちだからいたずらしたのかな。		

めあて(10月17日)	めあて（10月21日）	めあて（10月29日）	めあて（11月1日）	めあて（11月6日）
単元の学習課題を解決するための学習計画を作ろう。	ごんなくなったのかについて考えよう。	ごんはたずらしたのかからい	ごんは兵十にきづいてもらったときはどんな気持ちだったのかな。	兵十の気持ちを調べたり、考えたりしよう。
まとめと　ふりかえり（わかったこと・考えたこと・わからなかったこと）	まとめと　ふりかえり（わかったこと・考えたこと・わからなかったこと）	まとめと　ふりかえり（わかったこと・考えたこと・わからなかったこと）	まとめと　ふりかえり（わかったこと・考えたこと・わからなかったこと）	まとめと　ふりかえり（わかったこと・考えたこと・わからなかったこと）
学習計画を作るためによく考えました。パワーアップするところでは、友達と話し合って理由を伝え合うと、友達と同じような考えになったので自分の考え自体がパワーアップしました。	「なぜ急にごんは優しくなったのかわかりました。どうしてわかったかというと、最初のごんの説明のところを読んで、ごんが単にいたずらをしているのではなく、一人ぼっちで人間たちにかまってほしかったからいたずらをしたのかなと思いました。	ごんは一人ぼっちだからいたずらをしたのかな」についてわかりました。どうしてわかったかというと、最初のごんの説明のところを読んで、ごんが単にいたずらをしているのではなく、一人ぼっちで人間たちにかまってほしかったからいたずらをしたのかなと思いました。	「兵十に気づいてもらった時にどのような気持ちだったのか」についてわかりました。どうしてわかったかというと、６の場面を読んだ時に自分がうたれたことは悲しいと思うけど、栗や松茸を持って行ったことに気づいてもらったことは嬉しい気持ちがあると思いました。兵十について調べたり考えたりするともっと良く単元の学習課題に向けて考えられるのではないかなと思います。	兵十の気持ちの変化についてわかりました。「おっかあが死んで悲しい」「だれかがくりを届けてくれてふしぎ」という気持ちが強かった。ごんのことを「ぬすっとぎつね」と思っていて、ごんがしたことには全く気づいていなかった。ごんがしてくれたことに気づいた後の場面では、ごんを殺してしまって「すごく悲しい」「悪かった」という気持ちが強いと思いました。
次回考えたいこと	次回考えたいこと	次回考えたいこと	次回考えたいこと	次回考えたいこと
学習計画に、向けて細かいところまで調べたい。	「ごんがらいたずらをしたのかについて考えたいです。	「ごんが兵十に気づいてくれたときどんな気持ちだったのかについて」について細かく調べて行きたいです。	兵十について調べたり、考えたりしたい。	次のめあてについて細かく調べる。

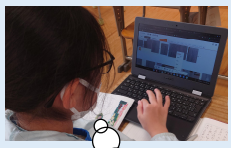
めあての設定

めあての設定

個別追究
グループ・ペア追究

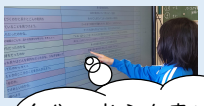
振り返り

本時の学習の振り返りを行い、学びを次の時間のめあてにつなげる。



ごんだけでなく、兵十のことも考えることが必要かもしれないなぁ。次回の計画を変更して、兵十について考えよう。

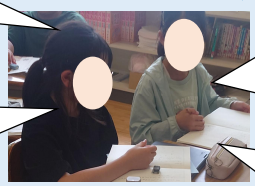
手立て②：学びアップカードを基に、学習内容や学習形態を自己決定し、個人で追究する活動の設定



自分の考えを書けたし、同じことを考えている人を見付けて交流したいな。

ごんは兵十を「自分と同じ一人ぼっち」だと思って栗を届けていたから、撃たれて悲しい気持ちだと思う。

たしかに。「火縄じゅうをばたりと取り落としました」のところから、兵十の受けたショックが分かるけど、ごんの思いは兵十に伝わっているのかな。



なるほど。私は「神様の仕業」と思われていたから、栗を届けていたのが自分だと気付いてもらえて、うれしい気持ちもあると思うよ。

兵十の気持ちも考えられると、この場面のことがもっと分かりそうだね。

各自のめあてを共有し、交流する相手を決める。 → 任意のタイミングでペア・グループ学習を行う。

まとめる

分からなかったことを分かるまで考えたり、前の時間に分かったことから、次の時間の計画を変更して自分で学習計画を決めたりできたので、自分が考えたいことを納得いくまで考えることができた。

ごんや兵十の気持ちをじっくり考えて何度も教科書を読み、理由を探したり友達と交流したりするといろいろな考えに気付くことができた。

成果
○児童の問いを基に個別の学習計画作りと追究を行ったことで、児童は学習を自分事として捉え、「自分の考えを伝えたい」、「友達の考えを聞いてもっと深めたい」という思いから、主体的に活動する姿が見られた。
○自分の学びを振り返って学習計画を修正する学習形態をとることで、児童は叙述を基に登場人物の気持ちの変化について試行錯誤しながら考えを深め、単元の学習課題に迫ることができた。

課題
●学習状況に応じた個別の支援が必要となる。支援が多岐にわたるので、効果的な学習環境や単元構想を工夫する必要がある。